

こ とう きょう  
古 銅 鏡

紀元前三～紀元後二世紀  
(前漢時代)

木 雞

金石書画拾遺 (20)

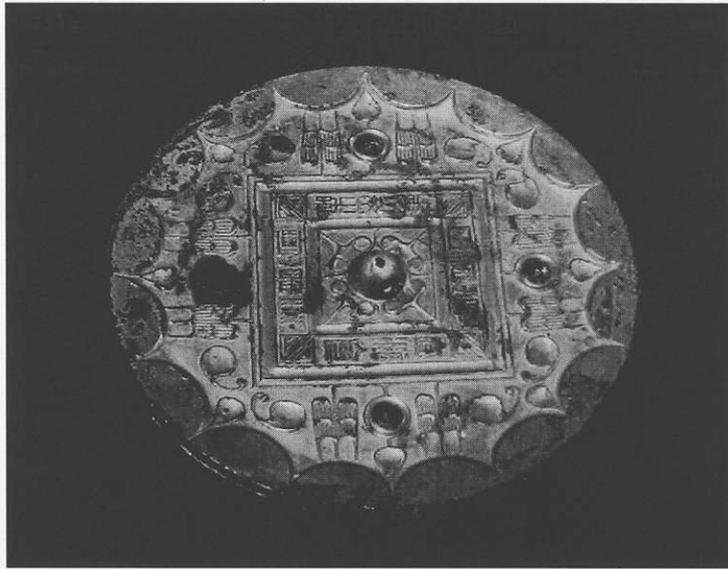
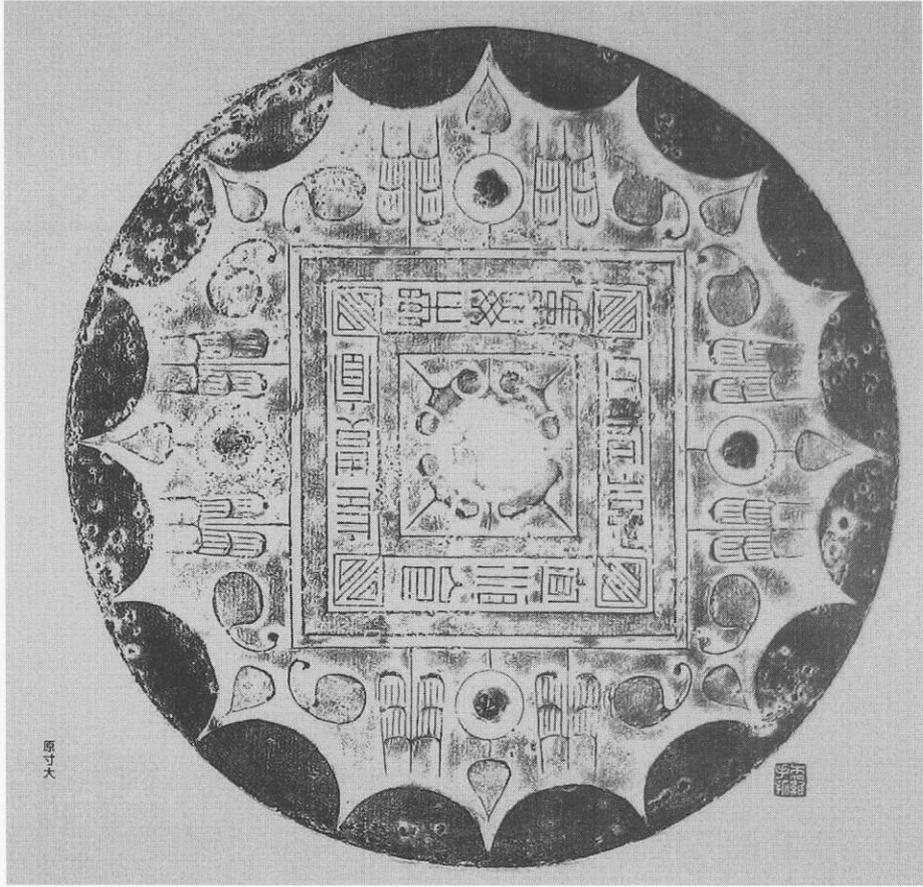
こ とう きょう  
古 銅 鏡

木 雞 室

伊 藤 滋

鏡は、戦国時代から漢代、六朝と歴代にわたって多くのものが出土している。漢代の鏡には銘文が見られる。特

に吉祥語の銘文のあるものは、拓本に取ったりして楽しむことができる。大きな凶版のものは、一般にその紋様から「連弧草葉紋鏡」と称せられている。銘文は、「日有熹、宜酒食、長貴富、樂母事」の三字一句の吉語である。他にも「長母相忘、見日之光」とか、「與天相壽」「與美相長」「與天無極」などの四字句も多い。文字と紋様が円形の中に巧みに布置され、裝飾的にも美しい趣を呈している。



# 書道芸術院 創立発起人 (17)

風神雷神 一九七七年作



歩々清風起 一九七八年作



—みちのく青森の雄—

## 宮川 翠 雨

昭和30年代の初めころと記憶していますが、恒例の四ツ橋会条幅研究会が、大阪・南田辺の料亭「たちばな」で開催された時のことです。鈴木翠軒先生がこの時同伴してこられたのが宮川翠雨先生でした。宮川先生にお会いしたのは、後にも先にもこの時一回切りでした。精悍な感じを受けましたがもの静かな方でした。翠軒先生の高弟で、みちのくを中心に活躍しておられた頃です。大阪には高弟の若槻青嶂先生がおられ、四ツ橋会会長を務めておられました。宴席で酒を飲まない宮川先生と日本酒をよくよく愛した若槻先生が歓談しておられる姿が印象的でした。

宮川翠雨先生は1912年（大正元年）9月、青森市に生まれました。1934年（昭和9年）青森市で開催された翠軒先生の講習会に参加してその書法にいたく感動し、1941年（昭和16年）翠軒先生が国定教科書執筆と文検委員を退められた秋に入門。以来翠軒先生を生涯の師と仰いでおられました。翠雨先生は翠軒先生と用筆法は同じでも「そのままでない僕のもの……農家に育った者しかわからない玄土の色・ボリューム・暖かさ」を表現することをいつも念頭においておられたようです。

（小伏竹村記）

# 書のひろば

理事長 恩地 春洋

「世界的に見た源氏物語の特異性」

天江喜七郎先生

記念パーティー

8・8

(※) 秋季展 作品締切  
(梅) 奈良巡回展実行委員会

奈良支部

8・10  
8・11

(※) 富山巡回展・北陸支局展  
同 作品解説会 春洋

16-15- 同 懇親会

(梅) 四国展 前夜祭

8・14 同 開会式 泉美ロビー

13-10- 同 顕彰式祝賀会 全日

空ホテル(春洋担当)

終了後、高知県安芸市へ

13-30- 安芸全国書展高校生大会

表彰式 安芸市女性の会

審査長 恩地春洋

全国より500余点の応募あり

入選200点

訪欧トランク送り、東京へ

9- (※) 秋季展作品審査と役員作

品の確認(文具会館)

15- 十和田奥入瀬に移動

8・18 単位認定講習会

10-30 書道史 種谷萬城

刻字 宮澤梅徑

漢字 小伏小扇

かな 下谷洋子

院史 恩地春洋

9- 前衛 板垣洞仙

現詩 辻元大雲

15- 一般教養

終了後、成田空港に移動

十和田↓八戸↓上野↓成田

8・20(※)60周年記念ウィーン展訪

欧団 参加27名

(1) 大使館文化広報センターで

書展とワークショップ

谷脇梅翠氏中心に

(2) 市民大学で書展とワークショップ

プ、辻元大雲氏を中心に

ウィーン・ザルツブルグ見

学後、帰国。(春洋途中帰

国)

8・23(※)役員作品巡回展・甲信越

支局展、松本市美術館

8・25 16- 同 解説会(春洋)

18- 同 祝賀会

辰野パークホテル

8・26 東京へ移動

8・27 10- 「書道芸術」審査

9・4(※)役員作品巡回展・関西

総局展・玄遠社展・日

韓親善交流展など

## 「セントラル100人展」

08 現代の書新春展「セントラル100

〇人展」の出品者が決まりました。

来年は、60才以上で、59回毎日書道

展出品作の中から選ばれました。院

関係は次の通りです。

石井明子 飯高和子 砂本杏花

辻元大雲 小伏竹村 板垣洞仙

香川倫子 村野大仙 (以上8名)

## 臍は伝統文化のシンボル

臍のない人間 アーサー・ケストラー

人間というものはどんな人だって、

火星から降って来たものでもなければ

木の股から飛び出したものでもない。

皆お母さんから産まれたものでありま

す。俺だけは親の腹から産まれたもの

ではないなどとは言えません。どうし

てもお母さんから産まれざるを得ない

のです。その母の胎内にある時には、

臍の緒で栄養を吸収して育ち、そして

外に出ると、その臍の緒を切って、そ

の痕跡が臍になるのですから、明らか

に臍というものは、伝統の象徴であり

ます。臍のある限り、我々に歴史と伝

統というものがあるといふことです。

親には親の精神・文化がありますから、

つまり親の伝統、親の文化、親の精神

を継いで我々は産まれたのです。

(安岡正篤「講演録」より)

## 野口白汀さんの死

東京書道会理事長で毎日書道会理事、

日展評議員の野口白汀さんが亡くなら

れた。7月27日、告別式に埼玉県熊谷

市まで往復した。盛大な式であった。

白汀さんは、貞政少登、小木大法先

生らと大字書の仲間で審査部委員の時

代から親しかった。いっしょに訪中し、

よく建物や風景のスケッチをされていた。

最近NHK俳句会の即席揮毫な

どをしておられた。これからという時

なのに、残念です。ご冥福を祈ります。

## 漢字 (五)

上妻華竹

美しい白をいかに残すか？ 難しい。残し方によっては無駄な余白になってしまう。生きた白、どうすれば白が生きるか？ 線の強さ、墨色の美しさ、また文字の配置も大事な要素だと思う。今回は、多字数書の白の残し方を考えてみた。一字書の白の残し方とまた違った苦心がある。文字のバランスも考えながら美しい白をどの様に創るか？ 一字一字の文字構成を考え、全体のバランスを考え紙面をどう斬るか、ああだこうだと思いつくらし、小さな紙に何度も書いてみる。そして、やっと本番の紙に書いてみ



第42回竹扇会書展出品

上妻華竹書

るが、やはり小さな紙のようにはいかず、また、一からやり直し。しかし、時間に限りがあり仲々思い通りの作品が出来ない現状だ。

第59回書道芸術院展・第42回竹扇会書展・第60回書道芸術院展と多字数作品の美しい空間の創り方をテーマに作品制作に、取り組んでいるが、いまだ満足できるものに到達していない。もう少しこの課題を追求してみようと思っている。

## 21世紀の書

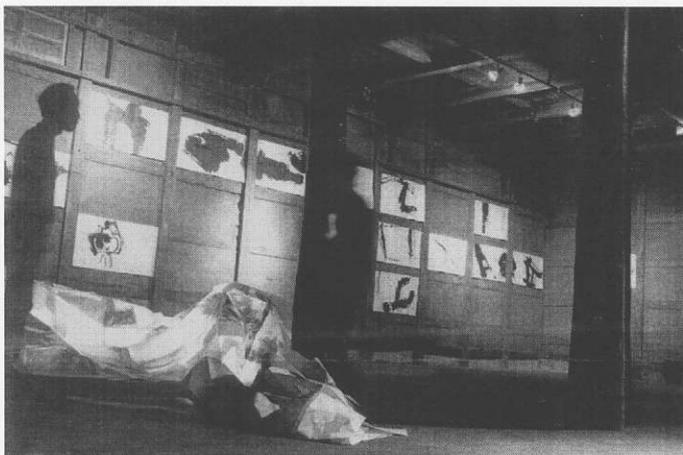
— 私の主張 —

## 前衛書 (五)

真下京子

2006年10月、友人の大沢義寛氏と二人で、機織の街、群馬県桐生市の有隣館で「符合展」を開催した。有隣館は明治時代にできた酒蔵である。

今まで美術館やギャラリーの採



真下京子×大沢義寛「符合」展 2006年10月

光の整ったきれいな会場ばかりに作品を飾ってきたが、酒の匂いのしみ込んだ土壁に囲まれた酒蔵に作品を運び込んだ。この薄暗い大空間に作品が飲み込まれないためにはどうすべきか？

この伝統のしみこんだ会場には原始の書が似合う、と思ひ小屯殷墟出土の陶文や刻符などをもとにした作品を展示した。筆にて刻むように書線を生かして書く……。強い緊張感と高い精神性がないと押しつぶされてしまうのである。大沢氏は作品を立体で床に編みこみ、私は土壁面の木枠にはめ込んだ。

会場に入った瞬間は薄暗く、目が慣れるまでは作品が見えない。目が慣れるにしたがって作品がささやき始める。この会場の雰囲気に合わせて選曲したバッハやモーツァルトを聴きつつ、深々とした時空に包み込まれるという演出の書展となった。

冒険や実験なくしてクリエイティブな仕事は生まれません！と思う。

〔解説〕

「楽毅論」は中国・戦国時代燕国の武将であった楽毅の人物を述べた文章であり、三国時代の夏侯玄(字は泰初)の作。かつて中国東晋の能書・王羲之がこの「楽毅論」の名筆を遺した。

本巻は舶載された王羲之書法の臨書と考えられているが、加えて皇后独特の品位と気魄のこもった書風が醸し出されている。

(編集部)

注

漢字研究部競書作品は、左の法帖の中から何文字臨書してもよい。(掲載部分以外は不可)

※落款を必ず入れる  
署名、もしくは  
〇〇臨  
(押印のみ可)

大甲而不疑、大甲受放而不怨、是存大業於至公。而以天下為心者也。夫欲極道之量、務以天下為心者、必致其主於盛隆、合其趣於先王。苟君臣同符、斯大業定矣。于斯時也、樂生之志、千載一遇也。亦將行千載一隆之道、豈其

大甲而不疑、大甲受放而不怨、是存大業於至公。而以天下為心者也。夫欲極道之量、務以天下為心者、必致其主於盛隆、合其趣於先王。苟君臣同符、斯大業定矣。于斯時也、樂生之志、千載一遇也。亦將行千載一隆之道。豈其

古筆鑑賞

④

かな研究部

本阿弥切 (伝小野道風)

②

用紙・半紙普通判(料紙可)  
〈たて長に使用〉

・別紙を裁断して貼付は不可。

い(意)ま(末)いく(久)か(可)は(者)  
るもなけ(介)れば(盤)う(久)ひ(日)  
すも(毛)は(者)なか(可)め(免)  
てお(於)もふべらなり(利)

あ(あ)ふ(ふ)か(か)ら(ら)も(も)の(の)花(は) き(支)よ(は)者(者)  
ら(ら)の(の)ふ(ふ)か(か)可(可)や(や)ぶ(ぶ)

あ(あ)ふ(ふ)か(か)ら(ら)も(も)の(の)は(は)者(者)な(な)那(那)ほ  
(本)こそ(曾)か(可)な(な)し(し)け(希)れ(連)  
わか(可)れん(无)こと(を)越(越)か(可)  
ね(年)てお(於)も(も)へ(へ)ば(ば)盤(盤)

あ(あ)し(し)び(悲)き(支)の(の)山(山)た(多)ち(運)  
は(者)な(那)れ(連)ゆ(く)久(久)も(も)  
の(の)や(や)ど(ど)り(利)さ(佐)だ(多)め(め)ぬ(ぬ)よ(よ)に  
(介)こそ(曾)あり(利)け(介)れ  
をか(可)た(多)との(支)き(支)の(支)の(支)の(支)り(利)

あ(あ)し(し)ち(ち)の(の)山(山)た(多)ち(運)  
は(者)な(那)れ(連)ゆ(く)久(久)も(も)  
の(の)や(や)ど(ど)り(利)さ(佐)だ(多)め(め)ぬ(ぬ)よ(よ)に  
(介)こそ(曾)あり(利)け(介)れ  
をか(可)た(多)との(支)き(支)の(支)の(支)の(支)り(利)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨 (押印のみも可)

〈解説〉

本阿弥切は、もとは卷子本で卷十二(国宝・京都博物館蔵)、十四、十六(宮内庁保管)が零巻として現存するほか、多くの断簡が各家に分蔵されている。料紙は、胡粉地に雲母文様(世・唐草・雲鶴ほか)の布目打ちのある唐紙、色は白、藍、茶などがある。料紙の大きさは、縦約17cmで、それを10行ほどずつに裁断し、卷十六を除くと巻ごとに同種の料紙で統一している。(編集部)

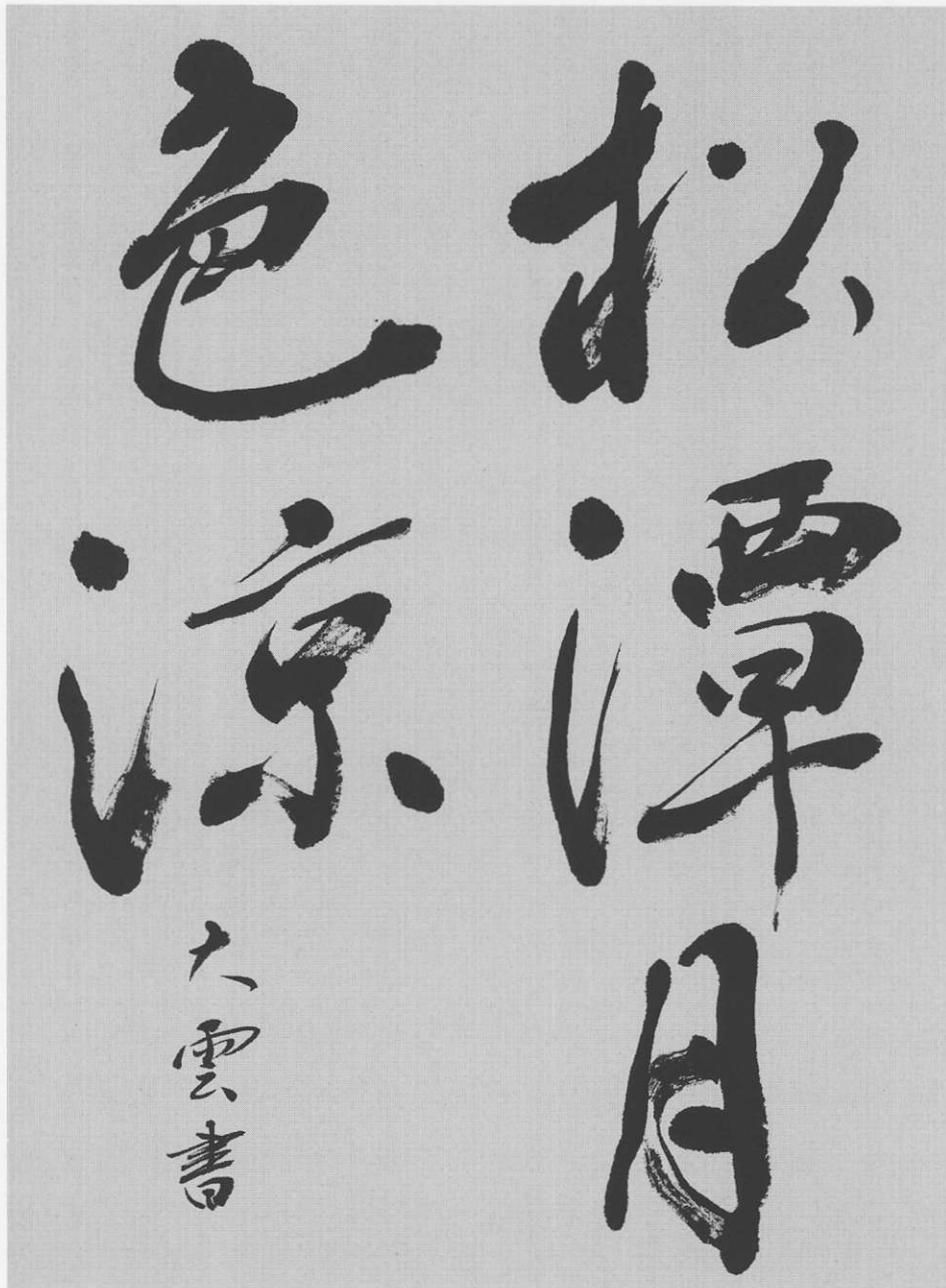
注 かな研究部競書作品は、左の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

漢字規定 初段以上【九月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判

辻元大雲 選書

習い方解説 (五)

辻元大雲



松潭月色涼

よみ (松潭月色涼し)

書体 自由

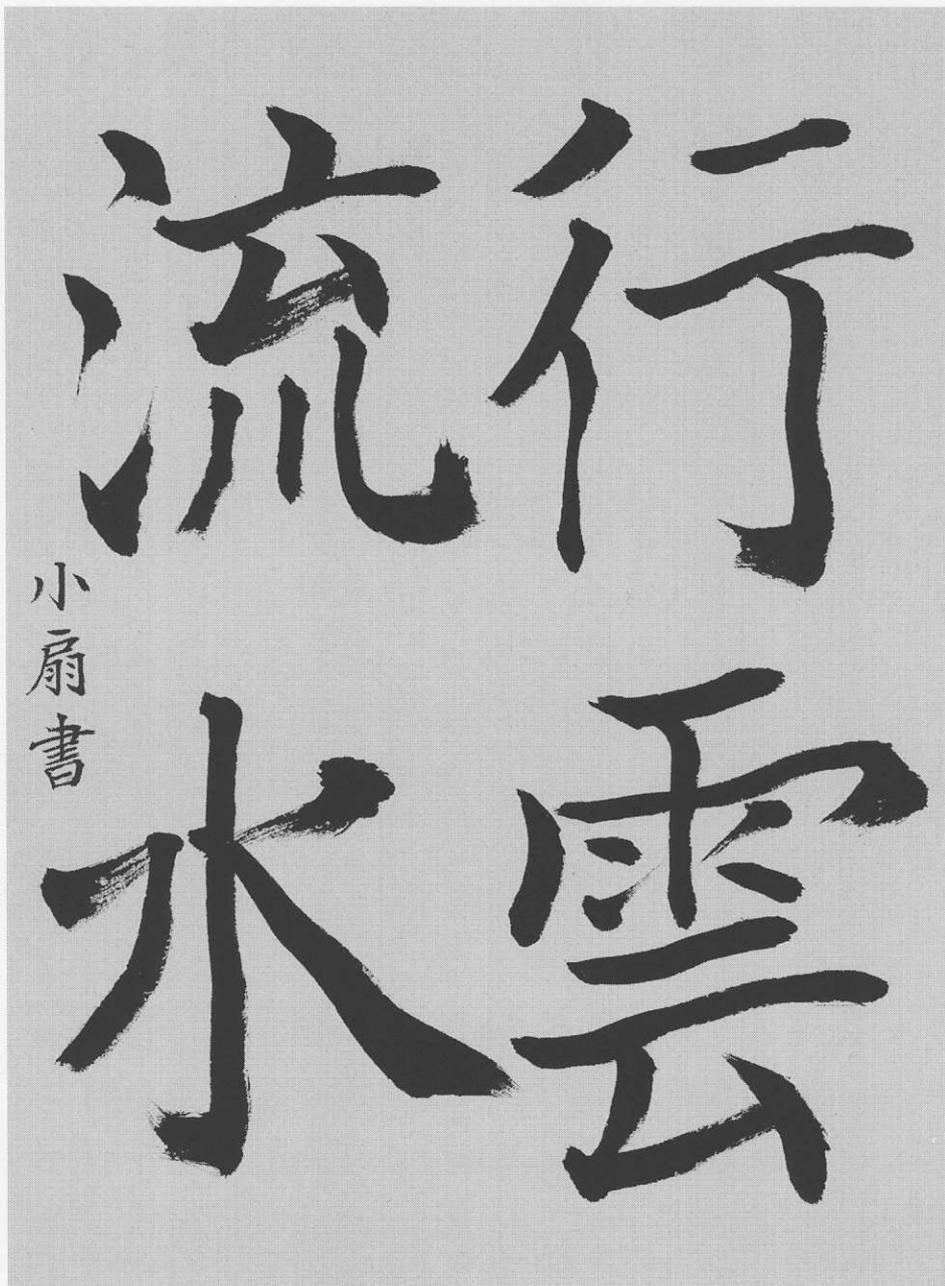
松潭月色涼

松の影の映したる深き淵  
月の光がこの上もなく涼しい

今回次回と五文字表現です。行書でおだやかな表情をねらい、柔らかな羊毫筆で書いてみました。学書の基本は古典臨書にあるとよくいわれます。近くにいる師の肉筆手本はわかりやすくて身近ですが、師風に染まりすぎてややもすれば俗書の気風を身につけてしまいがちです。師風が俗書というわけではないかもしれませんが、師風に偏りすぎるこの弊害として起こりうるのです。その点、古典は長い年月多くの人々の眼を経てなおその質の高さ、品位を失わない気高さを持っています。何より、我々が考え行動するあらゆるものの典型や規範ともいえるものの存在するのが古典です。ただ色々ありすぎて、何から勉強すればよいのか迷ってしまいます。その時こそ師の導きが生きてきます。

漢字規定 秀級以下 【九月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判

小伏小扇選書



行雲流水

よみ (行雲流水)

書体Ⅱ楷書

### 習い方解説 (五)

小伏小扇

行雲流水 (行雲流水)

自然な流れに任せること。何の  
わだかまりもなく物に応じ、事  
に従い素直に行動すること

〔宋史〕

今回は楮遂良の雁塔聖教序の書  
風を取り上げてみました。細線で  
すが内に剛を秘め、行意を有し、  
伸びやかで美しい線です。

「行」一筆目と二筆目とは、はね  
の方向に違いがあります。

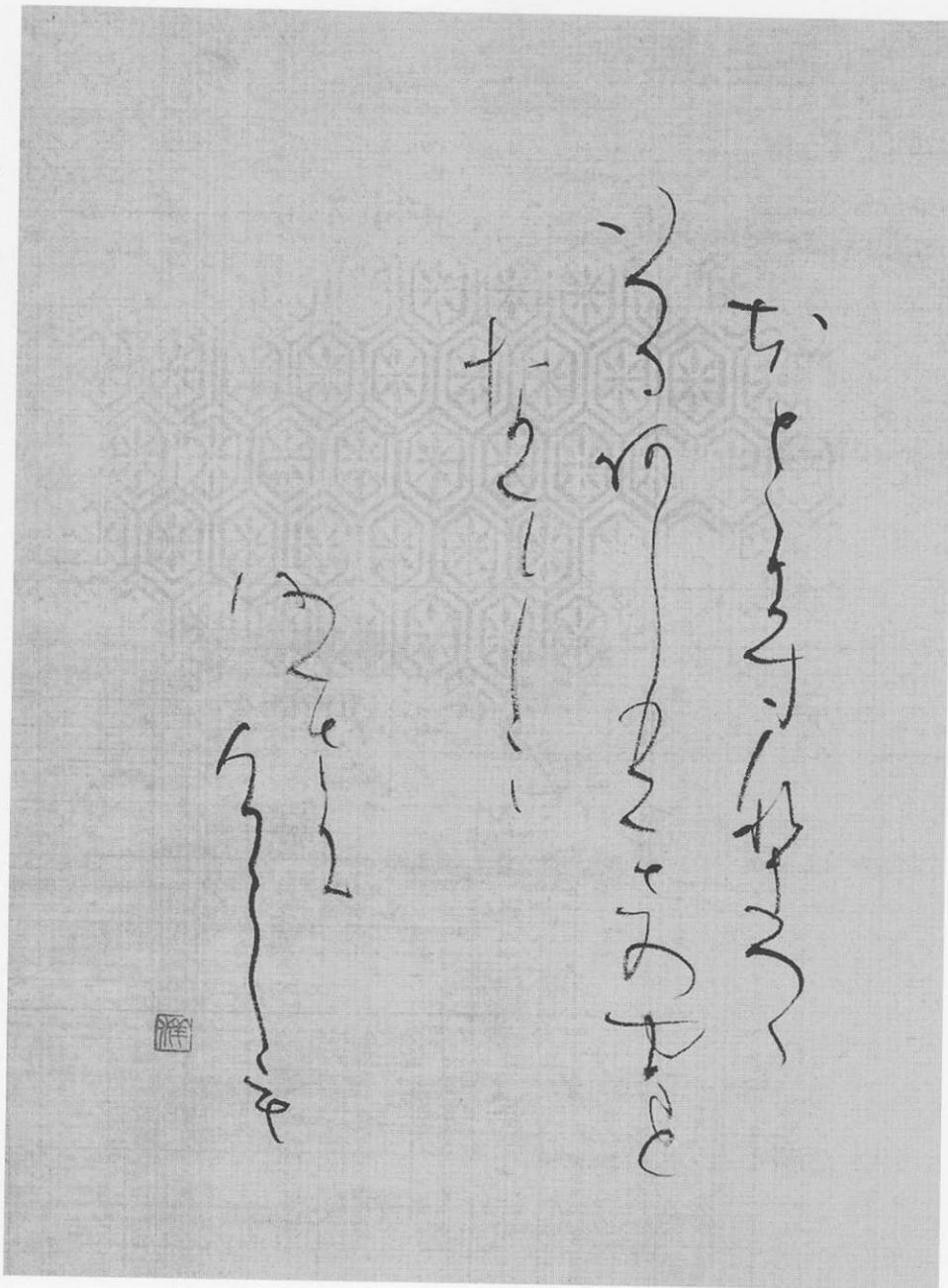
「雲」全体にゆとりをもたせます。

「流」へんとつくりのバランスを  
考え、整えて書きます。

「水」たて画強く、波法は三折法  
を用います。

かな規定 初段以上【九月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判(料紙可)

下谷洋子選書



よみ方  
ほ(本)とゝぎ(支)すな(那)き(支)つゝいづるあ(阿)しひ(悲)きの  
やま(万)となでしこ(さ)沙(き)に(介)け(介)らしも(毛)

創作

### 習い方解説 (五)

下谷洋子

郭公鳴きつつ出づるあしひきの  
やまとなでしこ咲きにけらしも

(新古今和歌集)

今回の歌はしが三回出てきます。ここでは置き換えずに書きました。置き換えなくても前半の二つのしは呼応しあい、また連綿の方法を変えたため余白に変化が生じ、簡素な中にも温かさが出たように思います。

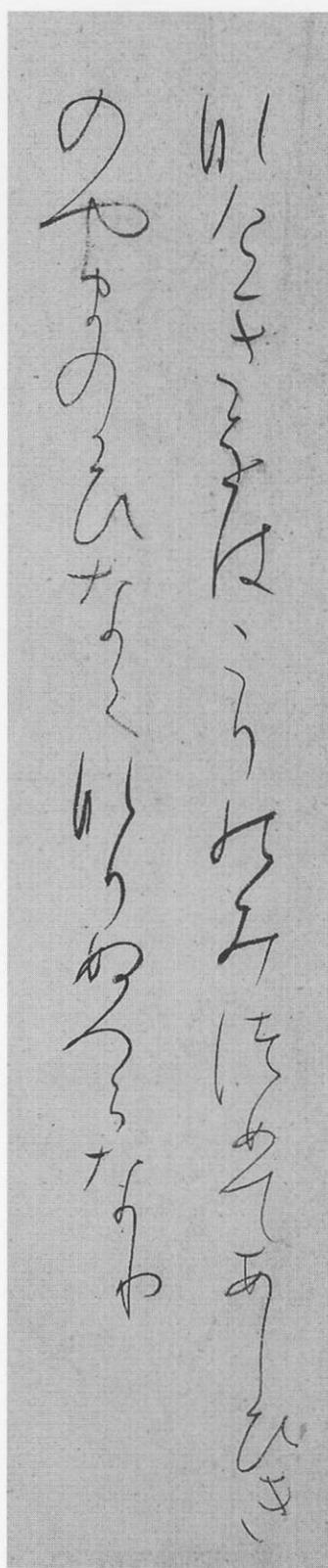
縦に流れる単純なかなを生き生きさせるには、しに限らずこの「線の呼応」が重要なポイントになります。同じ長さや同方向の繰り返しでは単調になり、間も美しく響きません。特にタテ画の方向に注目し創作してみましょう。

古筆を勉強されるときも、とかく字形にのみとらわれやすいですが、その形と共に線の呼び合う方向を探ることも書く以上に大切なことです。

かな規定 秀級以下【九月二十日締めきり】 用紙 半紙タテ1/2 (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全臨、または部分(二字以上の連続)を臨書する。

高野切第三種  
(掲載写真縮小93%)



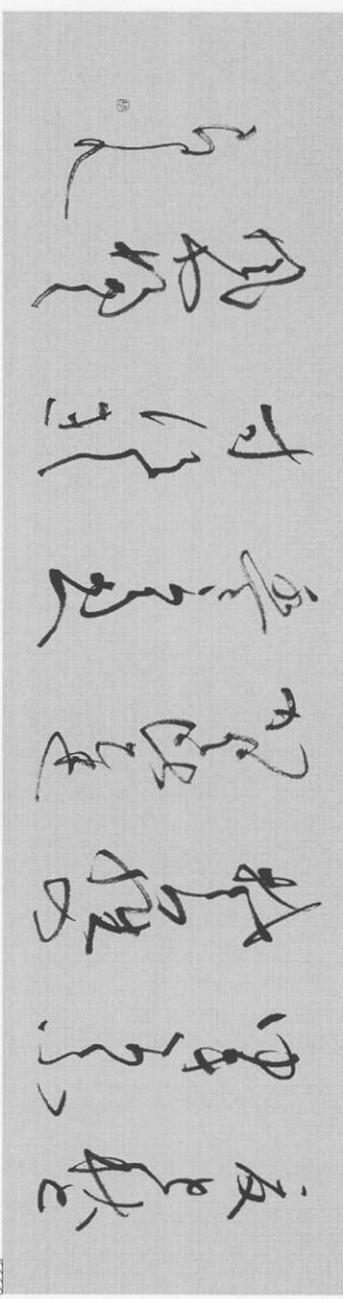
よみ方 な(那)げ(介)きをばこりの(能)みつ(徒)めてあしひき  
のやまの(可)ひなく(久)な(那)りぬべらなり(利)

かな条幅規定【九月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切(料紙可)

天海矩子選書

習い方解説 (五)

天海矩子



よみ方 夏と秋とゆきか(可)ふそ(楚)ら(羅)のかよ(与)ひ(比)ぢ(遅)は(盤)  
か(可)た(多)へ(須)し(風)や(婦)くら(む)无)

※横作品につき出品券の位置はここに

創作

夏と秋と行きかふ空の通ひ路は  
かたへ涼しき風や吹くらむ  
(古今集)  
今月は横書きです。一行は三〜  
四文字になってます。横書きの場  
合行間へ働きかけるような文字、  
構成が必要です。後半二〜三行は  
傾きに注意しましょう。  
※よこ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上【九月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

種谷萬城選書

青山横北郭 白水遶東城 此地一爲別 孤蓬萬里征  
地一爲別 孤蓬萬里征

青山横北郭 白水遶東城 此地一爲別 孤蓬萬里征  
(青山北郭に横たわり 白水東城を遶る 此の地一たび別を爲ば 孤蓬万里を征かん)

書体||自由

漢字条幅規定 秀級以下【九月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

萩原香扇選書

一振高名滿帝都 歸來還弄峨眉月  
一振高名滿帝都 歸來還弄峨眉月

一振高名滿帝都 歸來還弄峨眉月  
(一たび高名を振るって帝都に満たば 歸り来って還た弄せよ峨眉の月を)

書体||自由

### 習い方解説 (五)

種谷萬城

李白の五言律詩「送友人」の前半四句を採りました。今月は、行草書で流麗さを求めて書いてみました。綿々と連続する線は、筆の弾力を生かして書いてみましょう。王鐸、傅山、黄庭堅、懷素等の作品が参考になります。これらの臨書を通して流動感ある書を学んでください。

### 習い方解説 (五)

萩原香扇

今月も二行で十四字としました。八文字と六文字で書いていますが七文字と七文字でも考えてみてください。字の大小をつけるとよいでしょう。詩の内容を考え、まじめにまとめました。

ペン字規定 【九月二十日締めきり】

川島舟錦選書

オーストリアでは学校だけでなく  
一般の人達も夏休みをとり  
習慣があり、ヨーロッパ各地の山や  
海へ出掛けて夏のバカンスを  
楽しむ。ウィーン風ふう。書

用紙Ⅱはがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体Ⅱ自由

## 習い方解説 (五)

川島舟錦

『オーストリアでは学校だけでなく一般の人たちも夏休みをとる習慣があり、ヨーロッパ各地の山や海へ出掛けて夏のバカンスを楽しむ。私の家の近くの肉屋さんも20日間ぐらい休んでいた。みんな夏休みは当然のことと思っていた。そのためか、長期休業しても主婦らからは全く不平は聞かれない。……………』

『質素な生活の中しっかりしたものを各自が持っていた。歴史と伝統のある生活の中で、善悪の区別をはっきりと知り、人に迷惑をかけるようなことは最も恥ずかしいことだということを知っており、どの子も節度というものを心得ている。自律するということが子ども達全体にみながっているように見えた。』

自由と責任をわきまえ、心豊かに生活することにあこがれてまいります。のびやかに書いてみましょう。

※落款を入れ忘れないようにして下さい。(落款は自分の名前を入れてください。)

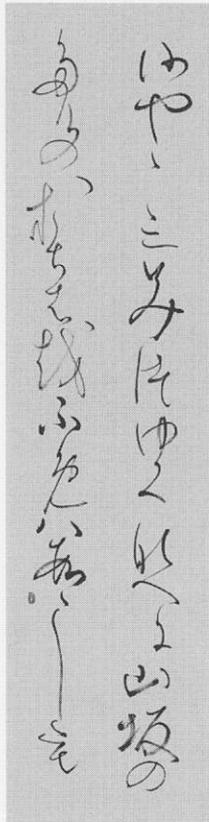
ホープ作品  
各部総評

NO. 553

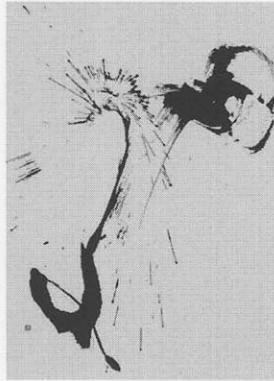
ペン字部 師範 都丸みどり  
ぱっと見てよく、じっと見ると  
なおよい。流麗ながら筆意に情感  
がある。余白も冴え格調高い作。  
◎ペン字部総評 ペン字であって  
も線に太細・強弱の変化のあるも  
のは魅力的です。自然とペン先に  
筆者の心情が表れます。(澄神評)

早期五時になるとわたしの  
部屋の窓辺にもこのあたりで  
「アムゼル」と呼ばれる小鳥が  
夜明けを告げにやって来ます。  
さわやかな朝です。 みどり書

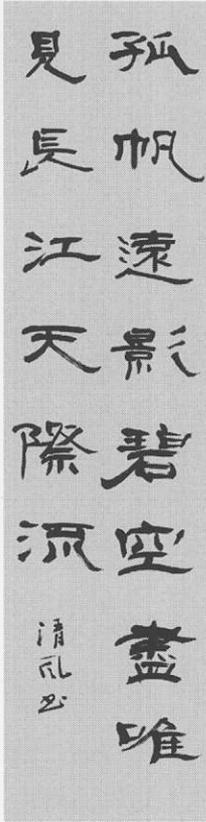
かな条幅部 準師 宮澤 草秋  
直筆で紙にくい込む強靱な線が  
一際光り、群を抜く圧倒的な厳し  
さです。さらに墨量の工夫を！  
◎かな条幅部総評 目立った誤字  
も少なく安定はしていたが、恐が  
らずにいろいろな表現に挑戦して  
幅を広げてほしい。(洋子評)



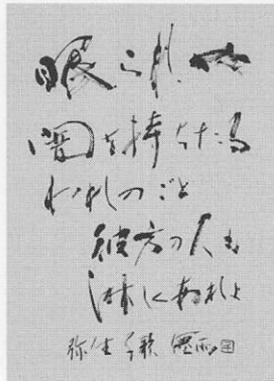
前衛書部 特選 庄司 咏艸  
筆線は一瞬、三筆程で終る。そ  
の線は飛沫点まで計算されており  
動的であり、空間バランスも最高。  
◎前衛書部総評 努力の意が皆、  
感じる。終筆筆先にまで、心配り  
を持つ事が大切です。(蕙芳評)



漢字条幅部 師範 後藤 清風  
本格的な隷書、強靱な線で余白  
へ高い響きを発する。逆入平出、  
藏鋒の確かな作品である。

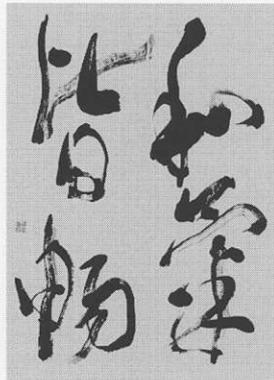


現代詩文書部 特選 長島 優雨  
線の切れ味鋭く「白」が美しい。  
情趣溢れる線情が美しく、横書き  
にマッチした瀟洒な作品。  
◎現代詩文書部総評 ネライがしつ  
かりすると筆も自然に動く。気持  
ちの燃焼が大切。(石雲評)

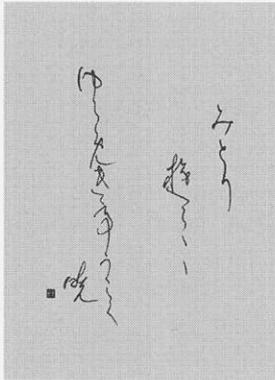


◎漢字条幅部総評 書は筆力ある  
強い線を基本として学書したい。  
線の遊びはその後でも遅くはない。  
もう一度線の点検を。(春洋評)

漢字部 師範 横井 正江  
運腕大きく、紙面に暢達した線  
質で広がりある作。潤渇のバラ  
スもよくリズム感溢れて妙。  
◎漢字部総評 上級者草書表現に  
誤り多し。参考例に頼らず自身で  
字典等による文字検索する習慣を  
身につけてほしい。(大雲評)



かな部 師範 栗原 信子  
動きの大きさが、控えめの字粒  
を効果的に生かし、余白の美しい  
作となった。安定感があり上品。  
◎かな部総評 上級者は堂々たる  
作品が目立った。全般に雅印が、  
大きすぎ、雰囲気壊していて残  
念。押捺まで再考を希望。(明子評)



# 特別研究部 優秀作品(特選)

現代詩文書

(うるいど)

蜜波羅 鳳雲

「艾青詩 哈密の瓜」

◆淡墨で快いリズムを奏でる。起筆など筆の立っている処は線が強い。逆筆途中に気をつければさらに響きの高い作品となるだろう。

(春洋評)

◆一気に流れに乗って表現されている感。詩の中に持つ強弱を筆で表現するとなると詩の持つイメージも変わってくるのではないかと思う。

(倫子評)

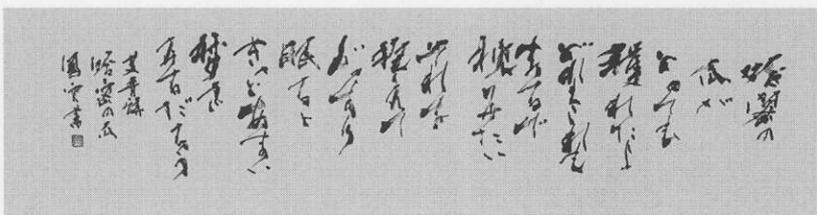
◆無理なく自然なリズムでの表現に好感を持つ。もう少しゆっくりに筆先を丁寧に使った方が深味を増すと思う。雅印やや固すぎる感あり。

(大雲評)

◆社中によってややパターン化している作風の中で、趣に独自性が見られ新鮮に映った。強靱な深い線が紙を噛み、伴ってリズムもく

(洋子評)

蜜波羅 鳳雲書



漢字

(華祥) 安藤華祥

「一徳格天」

◆二本筆による大胆な表現。青淡墨の宿墨か。やや濁りがあるため爽やかさに欠ける感あり。ともあれ気迫気力を込めての挑戦をさらに期待。(大雲評)

◆求心的で構築的な造形を淡墨が柔らげ、多彩な線を垢抜けた表情にまとめた。筆の性質か、終筆の軽さがやや気になるが…。(洋子評)

◆墨色と紙質が合わなかったのか、残念。筆の廻転を上手に使い滑筆の表現が所を得て表現が実に巧み。線に心が乗って一気に流れを感じる。(倫子評)

◆紙の選択失敗か、線が浮く。気力充実してよいが「徳」字間延びて甘い。さらに線の強さの研究を勧めたい、筆の弾力の使い方も含めて。(春洋評)



安藤華祥書

## 総評

今月は81点(漢23、か7、現31、前19、篆1)の出品がありました。書作品は、選文、墨色、線質、造形、余白、落款等に書家の工夫が見られ、鑑賞者を魅了します。特別研究部の審査会では、一点一点丁寧に作者の意図を考え乍ら協議をし、入賞作品を決定しています。創意や主張のある作品は、多少技巧が拙くとも、書家の感性が覗え、好感が持てます。それに技法が加わると説得力が増し、魅力的な作品となり、細かな心配りまで感じられます。

今月は、落款の書法、印の風格と作品の調和、印の位置や捺し方等に心配りが不足したものが残り残念でした。(萬城)

〈特選候補者〉

漢	京橋	武部	春浦	現	千葉	渡辺	秋湖
漢	もく	森田	藤谷	現	游水	荒川	空華
漢	墨宣	大川	代香	現	翠苑	佐々木	豊苑
漢	大雲	阿部	恵泉	前	四谷	角田	悠香
か	志引	鈴木	朝夫	前	蓮紅	浅野	彩紅
現	炎佳	佐藤	華炎	前	大拙	大庭	幸石



前田まさ美書

かな

(卯月) 前田 まさ美

「井泉水句」

◆心豊かな作品で、構成も巧み。時折見せる無表情の線に甘さを感じるの、さらに意を尽くして線の深さを追うこと。潤筆が単調でした。(洋子評)

◆俳句一行構成に大胆に取り組む。懐抱の大きさを言う。大字かなの生命はやはり線の切れ味と文字造形。線の鍛錬をさらに追及してほしい。(大雲評)

◆書泉会にしては、ねらいの変わった表現、おおらかで暖かい。文字が大きくなると技法も工夫がさらに必要です。次作を期待しましょう。(春洋評)

◆一番の見せ場であるう風の構えが味けない感、筆の速さによるだろわか、上と下との堺となる見せ場と思うので筆先の美しい廻転を。(倫子評)

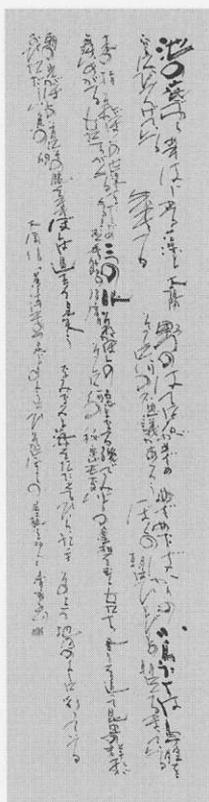
現代詩文書

(水壑) 伊 澤 香 雨

「大岡信詩」

◆筆の動きの速さが伝わって来るのが見える。後からせかせかと追い立てられる感がするのはなぜだろう。呼吸するリズムを私は欲しい。(倫子評)  
◆一・二行目の豊かな心情が、次第に単調な動きになった。長文を墨の潤渇とリズムによって見せようとするが私には何故だか響いてこない。(春洋評)

◆行に大胆な疎密、広狭をつけるが面として見ると見事に一つの景色となる。間のとり方や余白にも銜いがなく惹かれるが落款が異質。(洋子評)  
◆やや長文を文字の大小と行の揺らぎと粗密の変化でリズムを醸し出す。あたかも詩を口ずさむが如く展開する構成に魅力を感じる。(大雲評)



伊澤香雨書



佐藤詠子書

前衛書

(湘南) 佐藤 詠子

「氣」

◆書き出しの左辺から静かなリズムで充実、次第に早くなって左辺は知的に収め過ぎた。終りまで心象で一貫すれば、さらに深みが増したか。(春洋評)

◆何ともいえぬ淡墨の柔和な広がり大きな呼吸を感じさせ、観者を魅きつける。重なった線がやや煩さを感じさせる。もっと純化させては。(大雲評)

◆静かな呼吸の中でゆったりと組む姿勢。だが表現された中に強さも感じる全体の纏りにも変化がある。次にどの様な表情になるのか。(倫子評)

◆淡墨の重なりが幽玄な世界を醸し、蜃気楼の如く像が浮かぶ。何の像か、夢をかき立てられるセンスは一線を画すが、右の余白が気になる。(洋子評)





# 特別昇級試験

一、しめきり日 **10月20日(土)**

秋季は、作品募集を次のようにいたします。

- 漢字 一種、二種、三種
  - かな 一種、二種
  - 漢字条幅 一種、二種
  - かな条幅 一種、二種、三種
  - ペン字 一種、二種、三種
- かな、条幅の三種は、春季募集となります。

## 二、応募資格

- 一人で幾つの部にも応募できる。
  - 第一種 現在級が優級〜10級
  - 第二種 現在級が初段〜3級 (4〜10級の方は受験できない)
  - 第三種 現在級が準師範〜秀級 (優級以下の方は受験できない)
- ・新規出品者は、一種の10級で応募する。

## 三、課題文字と用紙

(創作文字は新旧字体どちらでも可)  
 ※漢字・かな・漢字条幅・かな条幅の臨書作品は、8月号(今月号556号)写真掲載の中から(指定文字数)を臨書。

## 漢字部

- 第一種 (一枚) 半紙11たて長に使用
- 楷臨書 高貞碑(高貞碑より)

5文字を臨書)  
 第二種 (楷・行 計二枚)  
 楷 創作 山秋菊葉香

行 臨書 蘭亭叙(蘭亭叙より12文字を臨書)

第三種 (楷・行・草計三枚)  
 楷 臨書 蘇孝慈墓誌銘(楷書)

行 創作 雁過天成就  
 魚驚水作紋

草 臨書 十七帖(十七帖より6字を臨書)

かな部 (料紙可)  
 第一種 (一枚) かな部創作は、かな・漢字変更自由。

第二種 (臨・創 計二枚)  
 臨書 和漢朗詠集 和歌二首 (半紙一枚に二首書く)

創作 もみぢ葉の流れととまる湊に  
 はくれなる深き波や立つらむ (素性)

漢字条幅部 小画仙紙半切11たて長に使用

第一種 (一枚) 創作 楷または行 悠然得佳趣

第二種 (楷・行 計二枚) 臨書 楷 孔子廟堂碑(孔子廟堂碑より14字を臨書)

創作 行 梨花落地半窓雨  
 柳絮入簾三日風

かな条幅部 小画仙紙半切11たて長に使用

第一種 (一枚) 創作 行く秋をしぐれかけたり  
 法隆寺 (子規)

第二種 (創 計二枚) 創作 もの置けばそこに生れぬ  
 秋の蔭 (虚子)

第三種 (臨・創 計三枚) 臨書 あきかせにほころびぬらしふ  
 ぢばかまつりさせてふきりくすなく  
 花鳥のなかの鬼灯ともしりける (夜半)

創作 山遠くたなびく雲に映る日も  
 やや薄くなる秋の夕暮 (小沢蘆庵)

ペン字部 筆がいつ頃作られたかは  
 明らかでない。新石器時代の彩陶の模様は毛筆によって描かれたであろうと類推されている。

- 第一種 楷書 (一枚) 出典 書道辞典より
- 第二種 楷・行 (計二枚)
- 第三種 楷・行・草 (計三枚)
- 四、名前のかき方 ◎どの部も氏名または名、号を書く。

印だけでは失格、特にかな・ペン字は注意のこと。

## 五、受験料

- 第一種 一、〇〇〇円
- 第二種 二、〇〇〇円
- 第三種 三、〇〇〇円

◇納入は昇級試験用振替口座、または現金書留でお願いします。

## 六、審査結果と昇級

- 成績に応じて、次の通り昇級させる。
- 第一種は、最高秀級まで
- 第二種は、最高二段まで
- 第三種は、最高師範まで

## 七、応募手続

- 1 出品票はバーコード形式で作品の右下に、一枚毎につける。(三種は三枚つける)
- 2 現段級とは58号の段級作品二枚以上ある時は、右上をホチキスまたはのりでとめる。支部の方は名簿形式にします。受付番号をいれ、お送りします。
- 3 個人で受験希望の方は、
- 4 ①受験の申し込みをする  
 ・申し込み先 〒101-0031 千代田区東神田1-16-17 芝崎ビル3F 図書館芸術院 書道芸術編集部特別昇級試験係  
 ・80円切手貼付、住所、氏名明記の返信用封筒を同封のこと。  
 (受験番号を記入した個人専用の応募書類を送付します。)
- ②送付された応募書類に必要事項記入の上、作品に添え応募する。
- ③備考
- ④受験申し込み締め切りは9月30日まで。
- ⑤応募書類は9月30日以後に整理発送します。

競書出品規定

締切日 9月20日

規定部

部門	字	漢	な	か	漢字条幅	かな条幅	ペン字
段級位	初段以上	秀級以下	初段以上	秀級以下	初段以上	秀級以下	10師級
用紙	半紙	半紙	半紙	半紙	半紙	半紙	はがきサイズ
書体・内容	創作(書体自由)	創作(楷書)	創作	臨書(写真掲載部を全て書く)	創作(書体自由)	創作(書体自由)	書体自由

前衛書部 審査委員は現代詩文書部 出品不可

半紙縦使用に限る、一人一点 (両部門に出品できる)

研究部 (審査委員は出品不可)

部門	漢字研究	かな研究
出品資格	審査委員候補以下(審査委員は不可)	審査委員候補以下(審査委員は不可)
用紙	半紙	半紙
書体・内容	掲載の古典の臨書文字数自由(掲載部分以外の箇所は不可)	掲載の古筆の臨書、歌一首以上を書く、全文も可(掲載部分以外の箇所は不可)

特別研究部 (審査委員も出品可)

特別研究作品	出品資格	用紙	内容
誰でも出品可(審査委員を含む)	小画仙・半切・または70×70センチ	70×70センチ	漢字・かな・現代詩・篆刻・前衛書の各部門を含んだ創作作品
「特別研究作品」出品券を貼付	縦横自由	※各部署を通じて一人一点。	篆刻は不可
※バーコード出品券は使用できない			

出品資格 高校生以上

月例競書作品出品の心得

- 一、締切日必着厳守
- 二、月別出品券を貼付していないバーコード券は認めない
- 三、月別出品券のコピーは不可
- 四、(一)初めて出品のときは「新」(二)回目出品のときは「10」(三)〇印は昇級(一)一級上の級を書く

- (四)「締切後着」・「段級不明」・「課題違反」・「落款なし」の作品は審査対象外とし、氏名を掲載しません。
- ※▲印段級誤記入

バーコード出品券についてお願い  
 \* 作品からはがれないように、右下にしっかり貼り付けてください。  
 \* 月別出品券の部別を間違えないように貼ってください。  
 (※スティックのりははがれやすいので、ヤマトのりを使用ください)  
 \* 記入する数字は、  
 級位は算用数字1、2、3...  
 段位は漢数字 初、二、三...  
 で書いてください。  
 \* 級位の方は、出品する月の本誌(最新号)で成績を調査確認の上、級を記入してください。確認できないときは、現在級を書き「未調査」と明記してください。

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区  
 東神田一―一六―七  
 神田芝崎ビル三階

財団法人書道芸術院

電話(〇三)三八六二―一九五四  
 FAX(〇三)三八六二―一九五七

お問い合わせ、ご連絡は、  
 月曜日～金曜日九時～十七時の間に  
 お願いします。(土・日・祝日は休み)

送料

一か月の購読部数が  
 1部～9部までの一回の郵送料

1部	68円
2部	84円
3部	92円
4部	100円
5部	116円
6部	124円
7部	140円
8部	148円
9部	156円
10部以上	送料免除

平成十九年七月二十五日印刷  
 平成十九年八月一日発行

定価 一部 六五〇円

編集兼 恩地春洋  
 発行人 恩地春洋  
 データ処理 株式会社リンクス  
 印刷 小沢写真印刷株式会社  
 発行所 (財)書道芸術院  
 〒101-0031 東京都千代田区東神田一―一六―七  
 電話 (〇三)三八六二―一九五四  
 FAX (〇三)三八六二―一九五七  
 振替 〇〇一五〇四―一三五〇五八  
 ナットコム http://www.hinos.co.jp/shogai/

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可  
 平成十九年七月二十五日印刷  
 平成十九年八月一日発行

(毎月一回一日発行) 書道芸術 第五五六号